



飼料増産

ホットニュース

第 58 号 2009.11.15

発行者 全国飼料増産行動会議事務局
事務局 (社)日本草地畜産種子協会
〒104-0031 東京都中央区京橋 1-19-8
大野ビル
TEL 03-3562-7032 FAX 03-3562-1651
<http://souchi.lin.gr.jp/>

TMR センター

青森県内3か所目のTMRセンターの稼働について
(吹越台地循環型TMRセンターの概要)

重点
地区

青森県農林水産部畜産課飼料環境G 梶田 昌裕

1 はじめに

青森県の酪農は、飼養戸数 306 戸で 15,000 頭が飼養されていますが、その中でも核燃料サイクル基地を有している六ヶ所村と隣接の東北町で約 50%が飼養されています。

県内の TMR センターは、既に六ヶ所村の J A らくのう青森 TMR センターと東北町の北栄 TMR センターが稼働していますが、本年 5 月から県内 3 か所目として、吹越台地循環型 TMR センター(六ヶ所村)が本格稼働しましたので、その概要を紹介いたします。

2 吹越台地循環型 TMR センターの概要

農事組合法人吹越台地飼料生産利用組合は昭和 55 年に設立され、農用地開発事業による国有林野等 375ha の草地造成や県内で初めてロールバレーを導入する他、草地に 32 基の風力発電施設を設置するなど、本県酪農のリードオフ・マンとして活躍しています。

現在、組合員は 58 戸で 1 戸あたり 80 頭～150 頭の乳用牛が飼養されていますが、担い手が減少している中での生産資材の高騰や家畜排せつ物処理などの対処方策として、TMR センターの設立を選択しました。

当 TMR センターは平成 18 年度から国の担い手育成総合整備事業を活用し、事業費約

10 億円をかけて TMR 飼料製造施設とバンカーサイロ 14 基、コーンハーベスターや自走式 TMR ミキサー車等の導入を行いました。

今年度は更にバンカーサイロ 6 基、TMR 飼料貯蔵庫を建設することとしています。

3 TMR センターの運営

TMR センターの運営については、組合員 15 戸で設立した株式会社ディリーサポート吹越が当たることとしていますが、コーンサイレージの収穫やサイロへの詰め込み作業については短期間で終了させる必要があることから、ダンプカーやホイールローダ等を所有する地域の建設・運送業者へ全て委託しています。

TMR 飼料製造に当たっては、面積 160ha 分の青刈りとうもろこしと 263ha 分の牧草をバンカーサイロに詰め込み、そのサイレージと J A らくのう青森 TMR センターが製造した食品残さ主体のセミ TMR 飼料及び濃厚飼料を混合して、1 日あたり 90 トンの TMR 飼料を製造しています。

TMR 飼料は 30 円/kg 程度で供給されており、一般の酪農家の搾乳牛 1 頭当たりの飼料費が 1,500 円/日であるのに対して、1,200 円/日程度となっています。

コンテンツ :

- 青森県内 3 か所目の TMR センターの稼働について 1 頁
- 長崎県北地域における土地条件を活かした「放牧」の活用と肉用牛振興 . . . 3 頁
- 事務局より 4 頁

4 環境に配慮した循環型酪農

原料として利用しているセミTMR飼料は、地域の飼料資源であるリンゴジュース粕・とうふ粕・醤油粕等の食品残さ主体で製造されていることから、飼料自給率の向上にも貢献しています。

また、ディリーサポート吹越の組合員からの家畜排せつ物は全て青刈りとうもろこし畑に還元されるとともに、TMR飼料製造に必要な電力は吹越台地の草地に建設された風力発電施設からの『グリーン電力』が利用されています。

吹越台地飼料生産利用組合が実践している

畜産環境保全に配慮した循環型酪農の取り組みから生産されたこだわり牛乳は、県民から一層支持されるものと期待されています。

5 終わりに

この取り組みにより、組合員は粗飼料生産作業から解放されるとともに、飼養管理に専念できることから、酪農経営の合理化と低コスト化が図られます。

また、TMRセンターにおいては耕作放棄地等への青刈りとうもろこしの作付け拡大を実施し、低価格での販売強化を図ることとしています。



飼料用トウモロコシ収穫

TMRの生産・調製



コーンサイレージの詰め込み作業



JAらくのう青森のセミTMR



配合飼料（タンク）



サイレージ



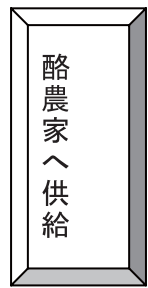
酪農家へは、2次発酵を押さえるため、圧縮梱包して運搬



TMRミキサーにて混合・攪拌



圧縮梱包機及び製品（600・900kg/個）



酪農家へ供給

放牧

長崎県県北地域における土地条件を活かした「放牧」の活用と肉用牛振興

重点地区

長崎県県北振興局農業振興課 山形 雅宏

1 県北地域農業の概要

管内は長崎県の北部に位置し、佐世保市・平戸市・松浦市・小値賀町、江迎町、鹿町町、佐々町の3市4町からなっています。平成18年における管内の農業産出額は約191億円（県全体の約14%）。うち畜産が約66億円（県全体の約15%、県北地域全体の約35%）です。中でも、肉用牛の産出額は約49億円であり、農業全体の26%を占め第1位の基幹作物となっています。

管内の肉用牛飼養戸数は1,544戸、飼養頭数は20,694頭（平成20年4月1日現在。県畜産課調べ。）となっています。

また、耕地面積は12,048ha（平成18年、県



全体の24%)ですが、県北管内の大半は地形が複雑な中山間地域からなるため、水田の基盤整備率は42%と県平均（51%）を下回っており、併せて、耕地利用率も75%（県全体96%）と低い状況です。耕作放棄地面積については、2,896ha（2005年センサス）、耕作放棄地率27%（県全体27.1%、九州地域平均12.7%）と非常に高く、大きな課題となっています。更に、イノシシによる農作物被害も増加傾向にあり、平成20年度の県全体の被害金額約2億7千万円のうち県北地域が約1億2千万円となっています。

2 県北地域における放牧の取り組み状況

本県における放牧の取組状況は、194箇所において607ha、常時放牧頭数1,864頭となっており、うち県北地域は93箇所で県内の約半数が集中しています。

県北地域の状況を年代別にみると、昭和30年代（旧宇久町）、40年代（旧生月町）、50年代（小値賀町）に整備されたノシバを中心とした改良牧野約180haが現在も利用されています。また、平成以降において電気柵を用いた集約的な放牧利用が急速に進み、佐世保市世知原町においては、平成12年度からイタリアンライグラスを用いた水田裏放牧に取り組み、併せて約70haの放牧面積が拡大しました。

近年においては、飼肥料価格の高騰、耕作放棄地の増加と鳥獣害への対策、放牧関係及び耕作放棄地解消にかかる事業メニューの充実などにより、再び放牧が注目され、平成18～20年度において約37haの放牧地が新たに整備されました。

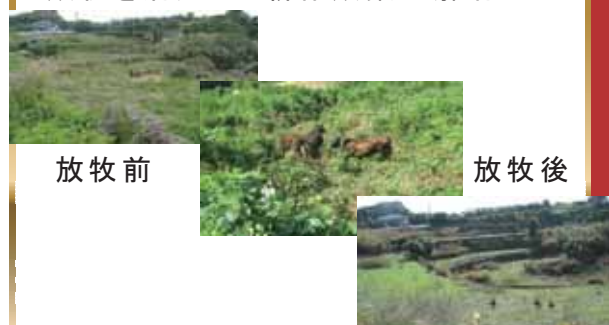


3 小値賀町における「放牧」を活用した肉用牛振興の取り組み

小値賀町は、五島列島の北端に位置する、面積25k㎡、人口3,039人（H19.10.1現在）の離島です。小値賀町における肉用牛飼養の歴史は古く、最盛期の昭和50年代には約800頭の繁殖めす牛が飼育されていました。

また、地域資源を活用するため、昭和 57～58 年、平成 12～13 年にかけて、ノシバを活用した里山整備を行い、14 箇所、56ha の放牧地が整備されましたが、規模拡大が遅れ、繁殖めす牛 10 頭未満の小規模農家が約 8 割と高いこと、また、高齢化の進展による農家戸数の減少により飼養頭数は平成 13 年には 451 頭まで減少し、それに伴い里山放牧地についても利用率の低下が顕在化してきました。

小値賀町認定農業者による 放牧を活用した耕作放棄地解消



このため、平成 18 年に和牛部会や関係機関の働きかけにより、放牧を核とした町興しを模索する動きが活発化し、和牛部会役員を主体とした「小値賀島ごと放牧検討会」が設立されました。その後「おぢか牛で町おこし推進協議会」へと発展し、協議会主導でアンケート結果を基にした集落説明会を実施するなどして、生産者への更なる理解推進が図られ、放牧を核とした肉用牛振興を目的に、平成 20 年 2 月「小値賀町島ごと放牧利用組合」が設立され、町内に存在する未・低利用の草資源を一元的に有効に活用する取り組みが進められています。

併せて、和牛部会において増頭運動に取り組み、平成 20 年には繁殖めす牛が 620 頭まで増頭が図られ、更に繁殖めす牛 800 頭、子牛販売頭数 650 頭の早期達成に向けて取り組んでいるところです。

4 終わりに

雇用機会が少なく、地理的なハンディを抱える中山間地域にとって肉用牛は地域の経済を支える重要な産業となっています。一方、農家数の減少による耕作放棄地面積の拡大やイノシシによる農作物被害の増大などの問題も顕在化し、また、農家及び集落の活力も減退している状況から、近年では耕作放棄地解消など地域保全のための手段としての「放牧」に関心が高まっています。しかしながら、地域住民の中には、「放牧」＝「水質汚染、害虫・悪臭・騒音の発生、畦や石垣の崩壊」といったマイナスイメージも根強く、推進上の課題となっています。

管内の小値賀町、佐世保市宇久町や平戸市生月町などの島嶼部では、豊富な土地資源を活用し、肉用牛の振興につなげていこうとする取り組みが進められています。また、本土地区においても放牧面積は着実に拡大していますが、まだモデル的な取り組みに限られている傾向があります。

条件の悪い農地でも唯一所得を生み出すことができるのは肉用牛の放牧です。関係機関と連携を強化し、放牧が持つ多面的効果を肉用牛の振興と結び付け、一層の拡大に取り組んでいきたいと考えています。

小値賀町における放牧風景



事務局より

《平成 21 年度コントラクター養成研修の開催について》

□ 12 月 2～3 日、「サンピーチ OKAYAMA」にて、コントラクターの育成とコントラクター組織の農業法人化を促進するための研修会を開催します。詳細については、当協会のホームページをご覧ください。

《搾乳牛放牧現地検討会の開催について》

□ 12 月 1 日鹿児島県霧島市にて、「搾乳牛放牧現地検討会」を開催します。詳細については、当協会のホームページをご覧ください。

《放牧アドバイザーによる放牧の現地指導について》

□ 放牧アドバイザーによる放牧の現地指導、放牧に関する講演の講師を派遣しています。詳細については、当協会のホームページをご覧ください。